

日本災害看護学会先遣隊 令和6年能登半島地震活動報告

2024年1月2日(火)3日(水)

活動隊員：酒井明子、花房八智代、作川真悟

1. 活動日時

令和6年1月2日(火)4:00-21:30 3日2:30まで土砂災害による通行止め

2. 活動場所

七尾市(国立病院機構七尾病院)

穴水市(公立穴水総合病院)

珠洲市健康増進センター、珠洲市役所

正院地区

飯田高校

3. 被害状況

2024年1月1日午後4時10分ごろ、石川県で最大震度7の地震発生。震源は、石川県能登地方輪島の東北東30km、地震の規模はマグニチュード7.6(速報値)。北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型。70回以上の余震発生している。同日午後4時22分、石川県に大津波警報発令。約3万3000戸停電。輪島・珠洲・能登では火災発生。

人的被害：石川県死者64名、建物倒壊による生き埋めなど安否確認中(3日現在)

4. 天候

曇りのち雨 最高気温10℃ 最低気温2℃

5. 活動の実際

4:00 福井県丸岡IC集合し、スタートする。

【車内で情報共有しながら活動場所の決定】

<避難所情報>

羽咋市15か所 穴水53か所 志賀小学校1000人 38か所 輪島3か所

輪島市役所30人 七尾16か所 珠洲市12か所で136人 金沢市46か所 野々市16か所

かほく市9か所

<停電情報>3万4000世帯

7:05 七尾病院到着

外来には、周辺住民が30人ほど避難している。自宅が断水のため、トイレと休息のために避難しているが、病院も断水のため、トイレは汚物で汚染状態。避難者は、不眠状態で疲れが見える。生まれてはじめての酷い地震で怖かったという。

7:20 七尾から珠洲市の道路はかなり亀裂が入っている

8:40 【公立穴水総合病院・穴水市役所到着(救急指定)】

病院は救急受け入れ中。待合室には200名程度の周辺住民が避難。待合室の椅子を合わせて寝ている高齢者と椅子に座って寝ている人で、避難物品で広く居場所を使っている人もおり、

避難場所や寒さに対する不満の声もある。断水のため、トイレは汚物で汚染状態。外で排泄している人もいる。食料はα米で学校に取りにっている。

9:12 【土砂災害で通行止め】

穴水町字北七海で土砂崩れのため迂回しながら珠洲市に向かう。段差が多く、かなり遠方まで見通しながら、走行ルート工夫する必要がある。

11:40 【珠洲市到着】

珠洲市健康増進センターで、社会福祉協議会事務局長から情報収集
飯田・正院・三崎の被害が甚大である。海沿いの家は、沿岸から50mに建つ家屋は被害に遭った。正院・三崎は2件につき1件は倒壊している。

職員参集できない状態である。ボランティアセンター開設検討中

11:50 【珠洲市役所災害対策本部】

珠洲市役所の災害対策本部で健康増進センター所長から情報収集する。
震災直後は、職員が参集できず、被害状況の確認や情報発信ができない状態である。正院と三崎の被害が甚大である。市役所内の避難者には声をかけられるが、正院小学校、飯田小学校、飯田高校などの避難所被災者の健康状態が心配である。健康チェックに回ってほしいと依頼を受ける。昨年5月の地震被害とは全く違い、珠洲市全体の被害でどこから手をつけて何を
してよいのかと思うと言う。昨年5月のような段取りで健康増進センター内に保健医療福祉調整本部を立ち上げる予定であるとのことで、立ち上げ協力することを伝える。

12:30 【正院視察し、正院地区会長に話を聞く】

正院地区内は道路の亀裂・段差が多く、車での視察は困難である。徒歩にて地区全体を確認する。住民のほとんどは小学校避難所に避難しており、地区内は閑散としている。傾いた家で片付けをしている高齢者には安全対策に向けて声をかける。自衛隊や消防による安否確認はまだである。

正院地区区長に話を聞く。正院はほとんどが全壊である。建物の損壊が少ない家も中は足の踏み場もなくドアも開かない。片付ける気力もない。昨年5月に修理してきたのに今度は一瞬で潰れた。もうこのまま津波がさらっていってくれないかと思うと言う。区長は、趣味の写真を撮りに行っていたが、地震発生したので、自宅に戻ろうとしたら、目の前の家いくつも倒壊し、砂埃が舞い上がって周囲が真っ白になったので、慌ててその場を離れた。怖かった。その後、自宅に戻ったら、全壊だった。妻は無事だった。今は何も考えられない。もう高齢だし自宅を建てる気持ちはない。昨夜も寝られず、食欲もない。とにかく寒い。避難所も満員なので車中泊をしている。

13:30 【正院小学校避難所】

避難所では、500人程度の被災者がストーブを囲んでパイプ椅子で座っている。段ボールベットの毛布、おむつ、紙皿、コップ、食料、消毒など、底をついている。炊き出しを行っている。

仮設トイレもなく、小学校前に穴を掘ってブロックで足場を組んで仮設トイレの代用としている。

手洗いは消毒薬を節約して使用している。停電のため、かなり寒い。毛布も限られており、外で焚火をしている。避難所内は衛生状態があまりよくない。

小学校グラウンドは、駐車場として使用しているが、車中泊者が多い。

14:20 【珠洲市総合病院・飯田高校避難所視察】

15:30 【健康増進センター】

保健医療福祉調整本部立ち上げへの協力

日本災害看護学会としての今後の支援可能日および人数を伝える。

PWJ（ピースウインズジャパン）と活動調整

18:30 【飯田高校避難所にて健康チェック】

飯田高校避難所は約 800 人収容。約 380 程度の避難者に声をかけて健康チェックを行う。

1 階から 3 階までのすべての教室に 10-30 人程度避難しており、ゆっくり寝るスペースはなく満員である。高血圧で内服薬を持ち出せなかった高齢避難者も多い。打撲・外傷に対して応急処置を行うにも衛生材料が不足している。

夫が瓦礫の下になって、救助を待っている人も複数いる。精神的に不安定である。

災害直後は、珠洲市総合病院で避難していたが、玄関のドアは空いており毛布もなく、常に救急車が入ってくるので、寒さと不眠で疲れ果てたという。

20:30 保健医療福祉調整本部に被災者健康状態を報告

3 日

2:30 通行止め解除 警察の誘導により、移動開始

6. 考察

令和 6 年能登半島地震は、令和 5 年 5 月奥能登地震とは異なり、石川県全域に甚大な被害を及ぼした。道路の陥没や亀裂が多く、通行止め箇所を迂回しながら、七尾・穴水ルートで侵入した。石川県内の被害状況を確認しながら移動したが、穴水から珠洲市へのルートは民家を通り迂回の連続で、車が亀裂に脱輪・落下しており、奥能登の被害の甚大さは明らかだった。本日夜から明日にかけて大雨が予測されていることから土砂災害が多発することを視野に入れて活動する必要がある。また、本震が震度 7 であったこともあり、今後最大震度 6 が予想されている。余震には十分に注意する必要がある。

珠洲市では、令和 4 年 5 月奥能登地震とは異なり、珠洲市全域に及ぶ被害となっている。被災地職員も被災者である。本部に参集できる職員も限られており、避難所支援の職員にも限界がある。地元職員をサポートする体制を早急に検討する必要がある。令和 5 年 5 月奥能登地震時に保健医療福祉調整本部で活動したメンバーが集まっているため、活動調整はスムーズに行えた。今後も外部支援者との連携を強化していき、被災地支援者への負担を軽減する必要がある。

避難所環境は劣悪と言わざるを得ない。停電・断水・物資不足もあり、3000-4000 世帯単位で支援を考え、早急に外部から人的・物的資源を投入する必要がある。特にトイレ対策は急務である。ゴミ箱をトイレの代用としたり、土に穴を掘ってブロックで足場を組んでトイレの工夫をしている。仮設トイレを依頼したが、100 単位でしか届いておらず、かなり不足状態である。本日夕方、給水車が設置され、断水対策も検討されているようであるが、その後もトイレ環境を整備が重要となる。避難所には、安否を心配する家族や持病や外傷を心配する人、内服薬を持ち出せなかった人が多い。度重なる余震に不安が高まっている人や生き埋めになっている家族を心配する人、受験生もいる。各避難所に看護職を常駐させる必要があることを本部長に伝え対応を検討してもらった。

避難先が満員であることやプライバシーや寒さ対策のため、車中泊が多い。寒さ対策、一酸化炭素中毒

やエコノミークラス症候群予防が必須である。

現在は、安否確認の時期であり、超急性期である。各区長に住民の安否を確認するように伝えているが、固定電話は繋がらず、携帯をもっていない区長もいるため、確認も困難となっている。午後は自衛隊・警察・緊急援助隊などが確認に回り始めている。数日後からは在宅巡回も必要になってくると思われる。

7. 参考写真



道路の段差・亀裂状況



停電下における保健医療福祉調整本部立ち上げ



倒壊家屋



倒壊家屋